

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立西都台小学校運営協議会長

<本年度の目標>

実際に企画・運営できる協議会にしたい。

○教職員との会話をする機会を設ける。具体的な成果を残すため、現場の声を聞いていきたい。

○学校支援コーディネーターが中心となり、イベントを考えて実践していく。

学校やPTAの取組にCSが関わっていききたい。冠を入れることで、協議会の目的や役割を保護者や地域に周知させたい。また、地域の人材を名簿にして活動できるようにしていきたい。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

昨年度よりこなれてきたせいか、毎回、委員全員がそれぞれの考えや意見等について活発な意見交換をすることができ、濃い内容となっていた。特に、物的・人的共に環境に恵まれている我が地域にとって、CSとの関わりを深くすることができそうな「生活科」や「総合的な学習の時間」に焦点を当てた質疑を取り入れたことで、より充実した熟議ができるようになった。今年度は、教職員との話し合いができたことにも大きな意義があった。2年目となり、「熟議」の意味合いも具体的なイメージを共有されつつあり、よい意味で活動を維持できている。今後もよい形で運営できていることができるよう、何が必要かを考えていきたい。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

各回の協議会において、協議のための環境設定に配慮や工夫があり、具体的な活動テーマについて活発な意見交換や質疑を行うことができた。ワークショップやグループ協議を経て、より現実的な協議をすることができ、昨年度より熟議を深めることができた。委員自身が活動を考える機会を設定してもらったことで、学校や教育活動について深く考えることができた。行事日程や具体的な連携活動等について、学校側が委員の意見を傾聴する姿勢を心強く感じている。いじめや生徒指導に関する情報提供も毎回ある。高齢化が進み、人材確保が難しくなっているが、委員としてボランティア募集の案内を引き続きしていきたい。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

前年度の自己評価を踏まえ、協議結果を基に取り組んだことを、ホームページやブログ等、様々な方法で積極的に発信できていた。学校支援コーディネーターが中心となって、「竹っ子サポーター募集」「竹を生かした七夕飾り」「クリスマスカード作り」等、CSの冠を付けた具体的な活動が幾つかできたことは情報発信の手段として大変良かった。「学校だより」や、CSディレクターによる「CSだより」の発行も、学校に対する理解を深め、地域住民に学校の応援を依頼する絶好の手段だと思う。協議会では、決まったことの発表に留まらず、それぞれの意見の交流の場となった。協議結果を情報発信し、ボランティアの依頼をすることもできた。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点

○CS委員として、地域に目を向けていく。(例:地域行事に参加し、地域住民に協力の依頼をする。)

入野地区全体にも目を向けて交流する。PTAとCSとの連携の強化。各種の取組にCSの冠を入れる。)

○個々の子供に目を配ることができるよう、できる範囲で竹っ子サポーターの充実、拡大に努める。

○生活科や総合的な学習の時間等から出された子供の考えを交える機会を持つ。